

## 英語科より

### 1. ご用意いただくものと配付するもの

#### ① 予め用意して **Gnoble** の授業に持参すべきもの

##### □ 授業用ノート：罫線の引いてある市販の大学ノート

添削を先生に頼む場合がありますので、ルーズリーフが便利です(先生の筋力にも限界が…)。  
4本線が引いてある『ローマ字練習帳』を用いるのは中1までを目安と考えてください。

##### □ ファイルやホルダ：プリントを収納するための市販のもの

毎回、複数の演習プリントが配付されます。以下のいずれかの方法で整理してください。

- ・「ポケットファイル」に入れる：20 ポケットのものを用意し、一回分を1ポケットに収納すれば1年間で3冊で済みますが、復習するときにポケットから出さなければいけないのが難点です。
- ・授業用ノートにプリントを糊やテープで貼り付ける：余白にメモを取るようになれば、これだけを使って復習することが可能ですが、貼り付ける手間がかかります。
- ・「穴あけパンチ」でプリントに穴をあけ「ファイル」で綴じる：「穴あけパンチ」が2穴であれば「2穴リングファイル」に綴じ、「ルーズリーフパンチ」であれば「ルーズリーフバインダー」に綴じます。前者は安価ですが穴が破れやすく、後者は高価ですが穴は破れにくいという長短があります。授業の解説をメモした「ルーズリーフノート」も綴じれば、これだけで復習が可能です。

##### □ 筆記具：鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、ペン、マーカーなど、お好みのもの

##### □ 辞書：英和辞典(電子辞書可) 和英辞典(電子辞書可) 英英辞典(電子辞書可 高2頃から) 授業中に辞書を引いている時間はありませぬので、自習をする場合に必要です。

#### ▼ お勧めの英和辞典

##### ◇ 身の丈に合った辞書を

中学に入って英語を学び始めた新中 1の方が、高校生用の中辞典を使っているのを目にすることがありますが、あまりお勧めできません。入門時にはそれ用の辞書を使った方が、辞書に馴染みやすいですし、辞書を使う効用も早く実感できることでしょう。一通りの文法項目が学習し終わり、なじんだ入門用の辞書が物足りなく感じてきたら、中辞典への変更を考えましょう。

入門用としては、「ジュニア・アンカー英和辞典(学研)」「初級クラウン英和辞典(三省堂)」等がお勧めです。

##### ◇ 新しい辞書を

辞典市場での競争は熾烈ですから、今生き残っている辞書は良い辞書と言えますが、2020年4月時点でお勧めの中辞典は、「ジーニアス英和辞典 第5版(大修館)」「アクシス ジーニアス英和辞典(大修館)」「ウィズダム英和辞典 第4版(三省堂)」「オーレックス英和辞典 第2版(旺文社)」「コンパスローズ英和辞典 初版(研究社)」です。電子辞書や辞書アプリを購入する際にはこれらを収録しているものを選ぶと良いでしょう。

##### ◇ 家では紙の辞書を

電子辞書は携帯するには便利なのですが、「画面が小さい」「用例を読むのにボタンを押さなければならない」等、不便な面もあります。「訳語だけを探して、良さそうな訳語を適当に当てはめる」という辞書の悪い引き方が身に付いてしまうことにもなりかねません。自宅の机では紙の辞書を引いて、じっくり読むことをお勧めします。

#### ② **Gnoble** の英語教材

##### □ 通常授業テキスト：小ターム[G1ターム等]一回目の授業で配付 高3生[受験生]は毎回配付

##### □ 季節講習テキスト：季節講習の一回目の授業で配付 高3生は配付なし

##### □ 演習プリント：授業最初に配付して演習～添削～解説

##### □ 音声教材[Gnoble Sound Laboratory(以下 GSL)]: 授業で「理解」⇒ GSLで「身に付ける」

学年ごとに設定されているパスワードを使って、ウェブサイトから GSL をダウンロードし、  
音声トレーニング  
Workoutします。そのためにコンピューターとインターネット環境が必要です。また、Workoutするためのプレーヤーも必要です。以前は「電子辞書」「プレイヤー」「携帯電話」の3台を持ち歩いていましたが、今はスマートフォンかタブレット端末1台あれば事足ります。

## 2. 授業の進み方と日々の取り組み

授業 × 教材 × 復習 = 伸びる学力

### 通常授業の流れ

◇プリントで演習 ⇒ ◇記述答案の添削 ⇒ ◇プリントの解説 ⇒ ◇宿題の解説 ⇒ ◇お帰り問題

- ◇プリントで演習：長文読解(和訳や要約)・英作文・文法等、プリント数枚が最初に配られます。
- ◇記述答案の添削：指定されたプリントの記述答案を提出します。先生が添削してコメントをつけた答案が返却されます。
- ◇プリントの解説：添削でひとり一人の課題を見極めた先生の解説に集中します。解説は双方向です。指名されますし、考えていただきたいことが発問されます。頭脳を最大限に活性化させて参加します。
- ◇宿題の解説：前回宿題として課されたテキスト冊子の文法や読解の問題が解説されます。自分が出した解答の正誤を確認するだけでなく、宿題に取り組んでいた時に疑問に思ったことや、疑問にすら思わなかった新たな問題を解決できるように努めます。英作文は添削されて、次回の授業で返却されます。先生が書いた添削コメントを理解して、明らかになった課題を克服します。
- ◇お帰り問題：音声トレーニング Workoutしてきた基本例文や長文読解の音声<sup>書き取り</sup>が教室で放送され、Dictation<sup>書き取り</sup>します。最初の演習時間に組み込まれるクラスや、別形式で出題されるクラスもあります。

### 英語が伸びる秘訣

#### ① 「理解」が大切

解説の時に大切なのは「理解」することです。記述問題の模範解答や先生が黒板に書いたこと話したことを「書き写す」のに懸命になると、「理解」するために使うべき脳力が割かれてしまいます。集中して解説に意識を注ぎ、「理解」した後に必要なことのみ「簡潔に書く」練習をしましょう。授業後の復習の時、解説を思い出しながら気づいたことを書き加えれば、さらに良いノートになります。

記述式の問題については、後日、記述答案を自分で作り直して、その妥当性を客観的に検討してみましょ。継続すると、着実に記述力が高まって行きます。

このような取り組み方で学べば、大きな学習効果が得られます。そしてこの学習方法は、一生の財産になります。

#### ② 休まず遅れずグノに行く、Homework, Workout ちゃんとやる。

Gnoble で英語を受講して伸びるのは、欠席も遅刻もせずに【宿題⇒授業⇒復習】のサイクルを生活に組み入れている方です。一定期間継続すれば、学力は必ず伸びます。しかし、授業を休むと、授業中の緊張感を持った演習ができず、演習後の痒いところに手が届く解説を聞けなくなるだけでなく、その前後の【宿題…復習】の学習サイクル全てを失うこととなります。

行事等で在籍曜日に出席できない場合はもちろん、1分でも遅刻するなら、後コマや別曜日に振り替えて出席することを私たちは強くお勧めします。(MyGnoや電話での届け出が必要です。)

病気等で止むを得ず欠席した場合は、教材を Website からダウンロードしましょう。次回出席時には受付に寄って、教材の現物を受け取りましょ。

### ③ 印刷教材

言語は本来音声です。**Gnoble**では**GSL**という音声教材を提供していて、これは強力な学習ツールですが、英語を「読む」「書く」際には、印刷されている教材を活用せねばなりません。大きく分けて、次の**2種類**の印刷教材を用いています。

#### 1. プリント演習問題

授業の最初に、学年やクラス事情に応じて先生が作成した数種類の B5 B4 の演習問題が配られます。数十分間、辞書なしで取り組みます。先生は添削や机間巡視をして皆さんの課題を明らかにし、それを皆さんが克服するのに役立つように解説をします。

欠席した場合、自分でプリントを解いて先生に提出すれば、採点添削されて、後日返却してもらえますが、授業に出席したのと同じ効果は望めません。「場の空気」は教室にいてはじめて伝わります。**Gnoble**の授業は生徒の皆さん一人ひとりと、担当の先生が一体となって作り上げるものです。貴方のいない授業は、貴方のいる授業の代わりにはなれません。欠席することを決断するときは、それで被る不利益をご自身で受け容れてください。

また高校生は、全学年全クラスで、プリント演習問題の「解答」は配られません。

英語科が演習問題の解答を配らない理由は以下の通りです。

- ・プリントは全て解説されるので、出席していれば印刷された解答はそもそも必要ないはずですが。実際には、「記述問題の解答を全て授業中に書き取ることはできないから、印刷されている解答がないと復習の時に困る」という方がいます。けれど、「困る」ということは、その時点での貴方の「課題が浮き彫りになる」ということです。その課題を克服すれば確実に、しかも目に見えて実力の向上につながるのです。「困った」ら、わからなくなってしまうことについて考え直し、調べ直してみましょう。それでもわからないことは、担当の先生に質問しましょう。そのことが貴方を大きく成長させます。
- ・解答が合っているということ、その問題で要求されている知識や考え方が正しかったということは同じではありません。授業に出席せずに、そのことについての自覚のないまま、「答は合っていた、ハイ終了」では学力は付かないのです。
- ・解答が配られないことで、授業中の集中力が向上し、要領の良いノートテイキングができるようになります。テキパキと書いて迅速的確に処理するという入試では非常に大切な力も身に付きます。
- ・万が一聞き逃しがあつた場合は授業後に質問するようにすれば、【宿題⇒**授業**⇒復習】サイクルにかかる総時間を最小化できます。

要するに、配らないことが貴方の学力向上と成長に寄与するとの確信がある、からです。

#### 2. テキスト冊子(=宿題)

文法解説とその基本例文である Sentences for Workout や、**宿題となる文法・作文・読解の問題**が掲載されています。**Gnoble** 英語科が、腕によりをかけて作成し、授業での実践を通じて磨き上げてきたものです。

前回宿題として課された問題の解説は、授業の終盤に行われます。高速のため、ついていくのが結構大変です。欠席した場合はもちろん、出席していたけれど聞き漏らした時には\*解答を確認しましょう。間違えた問題については、何故正答がそうなるのかを考えてください。疑問点が残れば、担当の先生に遠慮なく\*\*質問してください。

\*次回分の**テキスト巻末に解答が載ります**。テキストの配付がない授業回で解答が見たい場合、欠席教材と同様にウェブからダウンロードできます。

\*\*前コマは授業開始の概ね 30 分前から、後コマは授業終了後に、**教室**で先生に質問できます。その時間**その場所**であれば、事前の予約は不要です。

## 日々の取り組み = 宿題と復習

英語科では、中1から高3の全てのクラスで毎週一定量の宿題を出しています。問題を解いたり、提出する英作文を書いたりといった宿題には、毎週取り組んでいただかなくてはなりません。これをやらずに漫然と授業に参加しているだけでは、英語力の向上は望めません。自宅での宿題の取り組み方の具体的な方法については、テキスト冊子の前書きをご覧ください。

宿題をしっかりとやるのは最低限のことで、英語力が伸びるかどうかは<sup>音声トレーニング</sup>Workoutを継続しておこなうことにかかっています。

▼**文法の Workout**: 小ターム毎に配付するテキストの巻頭に記してある以下の勉強方法を、継続して行ってください。それで英語の基礎力は万全になります。

—— 授業で「理解」したことを「身に付ける」ための **Workout** ——

- ◇ <sup>聴き込み</sup>**Listening**: 授業で理解した文法の基本例文を、テキストを見ないで繰り返し聴く(回数は全ての文が完全に聴き取れるまで)。電車の中での時間も利用する。
- ◇ <sup>口まね</sup>**Retention / Shadowing**: **Retention** は、英文一本を丸ごと聴き取った後で、まねて発声する練習方法。**Shadowing** は、聞こえた英語をすぐさままねて発声する。
- ◇ <sup>音読</sup>**Reading aloud**: ◇の Workout で耳に残っている音を利用して、テキストを見ながら一文を音読する。目安は一文につき5回。
- ◇ <sup>暗誦</sup>**Recitation**: ◇の Workout の後すぐに、テキストは見ないで声を出して暗誦する。目安は一文につき10回。
- ◇ <sup>書き取り</sup>**Dictation**: ◇が終わった後、日を改めて行う。英文一本が流れ終わったら、丸ごと書き取る。書き取ったものをテキストと照合して、つづりの間違いなどがないかを確認する。

以上の Workout が終わった後で、宿題として出されているテキストの問題を解いてください。必要なことが頭に入っているので、スラスラと解けるはずです。

▼**読解の Workout**: 長文読解は、以下の Workout を行ってください。

- ◇ <sup>聴き込み</sup>**Listening**: 授業で理解した GSL 対応の長文を題材にする。
  - ① 英文を見ながら音声を聞き、意味の切れ目を意識して目で英文を追いかける(慣れるまで)。
  - ② 英文は見ずに音声を聞く。聞き取れない箇所は、後で英文を見て確認する。全て聞き取れるまで繰り返す。(英語の耳が出来てきたら聞き取れているかの確認に<sup>書き取り</sup>Dictationをするのもよい。)
  - ③ 英文は見ずに音声を聞いたそばから<sup>まねて声を出す</sup>Shadowingする。  
(①と②は電車の中などの時間も利用する。③は自宅では大きな声で、電車ではクチパクで。)
- ◇ <sup>音読</sup>**Reading aloud**: 授業で理解した長文を題材にする。気持ちを込めて、声に出して読む。目安は10回。一回毎に右のように印をつけてゆくと励みになります。



音読の効用は、具体的には以下の三点です。

- ① 声に出して読むと左から右にしか読んでいけない(=右から左へのいわゆる「返り読み」ができない)ので、英文の情報を「表現の持つ意味の単位で区切って、出てくる順番に頭の中に入れる」ことができるようになる。= 1回読んだだけで分かる力がつく!
- ② 声に出して読むと日本語に置き換えることができないので、英文の意味を英語のまま捉えられるようになる。= 速く読める力がつく!
- ③ 「目」だけでなく「口」と「耳」も使っているので、文法・語法・語彙が記憶に残りやすくなる。  
= 英語力そのものが向上する!